

佛印進駐ト日佛印協定

第一 前 言

起訴狀ハ日本ノ佛印進駐ヲ侵略戰爭ト斷定シテ居ル  
檢事側カ右ヲ理由附ケル爲主トシテ法理論ヲ主張スルナラハ我方ノ立  
場ハ極メテ有利ナル  
佛印進駐ハ北部佛印進駐及南部佛印進駐ノ兩回何レモ明カニ日本ト佛  
國ノ正當主權タル「ヴシ」政權及其傘下タル佛印政廳トノ間ニ成立  
シタ協定ニ基キ平和裡ニ進駐シタモノデアリ且佛印ノ主權尊重及内政  
不干渉ノ原則ハ之ヲ嚴守シテ居ルノデアアル  
尤モ檢事側カ「ドゴール」政權（昭和十五年六月二十三日宣言）ヲ佛  
國ノ正當主權ト認メ「ヴシ」政權ヲ「カイライ」政權ト見做ス場合  
ニハ問題ハ紛糾スルテアラウシ又昭和二十年三月佛印ノ武力處置カ行  
ハレタ以後ノ事態ハ此ノ限リテハナイ

第二 北部佛印進駐

0003

一、援蔣物資輸送禁絶監視團ノ佛印派遣

昭和十五年六月二十日日本佛國政府トノ間ニ援蔣物資ノ輸送禁絶

ニ關シ諒解成立シ我方ハ六月二十五日西原少將以下ノ佛印派遣監視

團ヲ編成シ之ヲ北部佛印ニ常駐セシムルコトトナツタ右監視團ハ七

月二日北部佛印ニ常駐所ヲ開設シ佛印ハ表面上七月六日以降援蔣輸

送禁止ヲ斷行シタメテアル、當時佛國トノ間ニハ上海抗日分子取締

ニ關スル日佛協定カ成立シ六月二十七日ニスル等日佛友好關係ハ頓

ニ増進シツツス

二、所謂松岡「アシリ」協定ノ成立

當時ニ於ケル援蔣「ルート」トシテハ上海「ルート」、佛印「ルート」

「ビルマル」ト「及西北「ルート」等ヲ數ハラレタカ佛印「ルート」

ハ其大宗ヲアツテ單カニ佛印政廳ノ取締ト人員僅少ナル日本監視團

ノ協力トヲ以テシテハ到底其禁絶ノ完遂ヲ期シ難ク「ノミナラス昆

明方面支那腹地ニ對スル對支作戰遂行ノ爲ニハ地理的關係上是非共

北部佛印ヲ其作戰根據トスル必要カアリ」茲ニ北部佛印ニ於ケル限定兵力ノ駐兵權並限定兵力ノ通過權ヲ要求スル事トナツタノテアル  
右カ專ラ支那事變處理促進ノ爲ノ要求テアツテ佛印ニ對スル領土的野心乃至ハ計畫的南方進出ノ意圖ニ基クモノテナイコトハ申ス迄モナイ

右要求ハ東京ニ於テ松岡外務大臣ト「アンリー」駐日佛國大使トノ間ニ交渉カ進メラレ八月三十日所謂松岡「アンリー」協定ト稱セラレル原則的諒解（別紙第一）カ成立シタノデアアル

### 三、西原「マルタン」協定成立

松岡「アンリー」協定ニ基キ進駐ニ關スル現地細目交渉ハ佛印派遣監視團長西原少將ト佛印政廳トノ間ニ八月三十日開始セラレ九月四日二十三時一瀾交渉ハ成立調印セラレタカ佛印側ハ適シ九月五日發シタ鎮南關附近ニ於ケル我方一部軍隊ノ越境誤認事件（後述）ヲ口實トシ之カ無効ヲ主張スルニ至リ交渉ハ更ニ續行セラレタノデア

ル、此間佛印ノ交渉遷延態度ハ極メテ露骨ナルモノカアツタカ九月二十二日十六時三十分迄ニ所謂西原「マルタン」協定ナルモノカ成立シタ

#### 四、進駐ニ伴フ局部的紛争

日本軍ノ陸路進駐部隊ハ九月二十三日零時ヲ期シ越境進駐ヲ開始シタ、右時刻ハ海防ニ於テ西原「マルタン」協定カ調印セラレテカラ約五時間三十分後テアル、斯クテ協定成立ヨリ進駐開始迄ノ時間カ短少テアル爲彼我共ニ第一線軍隊ニ對スル命令、指示等ノ示達カ遅レ彼我ノ間ニ戦闘カ惹起セラレタノハ已ムツ得ナイ次第テアツタカ九月二十四日午前中ニハ概ネ局部的解決ヲ見ルニ至ツタ、海路方面ノ進駐部隊ハ二十六日四時海防ニ上陸シタ、此際我航空機ノ海防艦隊事件カアツタカ之ハ全クノ誤爆テ某一機カ編隊長機ノ記號ヲ誤認シ爆彈ヲ一發投下シタノニ過キナイノテアツテ而モ爆撃地點ハ海防西南方郊外ノ畑地テアル

五、進駐ニ關スル我方平和的意圖ノ例證

現地細目交渉ノ實施中九月五日第五師團所屬某步兵大隊ノ鎮南關附近越境事件カアツタ我方ハ直ニ右大隊長及所屬聯隊長ヲ軍法會議ニ附シ調査シタ所越境ハ佛側ノ國境線ニ關スル誤認ニ基クモノテアツテ何等其事實ノ無イコトカ判明シタ

佛印側カ真相ヲモ調査スルコトナク且一度成立講印シタ協定ヲ破棄スル態度ヲ取ツタノハ誠意ヲ缺クモノト云ハナケレハナラヌ

又九月二十六日ノ海防ノ誤爆事件ニ際シテハ海防爆撃ノ入電ト共ニ東條陸相ハ其實情ヲ調査スルコトナク直ニ安藤方面軍司令官ノ交渉ヲ發令シタ

尙平和進駐ノ意圖ニ反シ彼我ノ間ニ局部的紛争ヲ惹起シタ責任ヲ問フ意味テ第二十二軍司令官、第五師團長（陸路進駐部隊長）モ交渉サレタノテアツテ之等卑近ナ事例ヲ以テシテモ當時ニ於ケル我方ノ眞意カ極力事態ノ平和的處理ヲ希望シタモノテアルコトハ明カテア